



基本理念「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

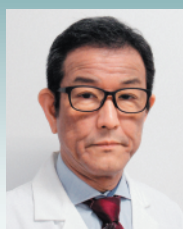
かわせみ

R6 年度
夏号
VOL.61

◆ 救急科の紹介

◆ 市立ひらかた病院ICLSコース 第50回を迎えました!

◆ 地域医療連携懇談会報告



ご挨拶

中島 伯（なかじま おさむ）

副院長 兼 診療局長 兼 内科（循環器）主任部長

2024年4月に副院長に就任致しました中島 伯です。引き続き診療局長も兼務し、病棟運用と外来全般の管理を担当致します。私は2001年1月に当院に着任しましてから、20年余りの当院の歴史を体感してまいりました。この間に疾病構造や患者の皆様の年齢層も随分変化しましたが、もちろん治療の分野も日進月歩です。私自身は診療のモットーとして、「First, Do No Harm(まず何よりも害をなさないこと)」を常に念頭に置いています。超高齢社会の我が国においては、医療介入が患者さんにとって、有益性よりも有害性の方が高まるリスクが多く存在しており、臨床医としてはマニュアル化されたガイドラインのみではなく、個々の患者さんにとって最適な診療方針を判断することが重要と考えております。また、「医は以て人を活かす心なり。故に医は仁術。」という言葉がありますが、現実の医療現場では、安全で良質な医療を提供するための安定した経営基盤の構築についても無視できません。

超高齢社会を迎え、病院を取り巻く環境が一層変化する中で、地域の医療ニーズに合わせた医療機器の整備や人材確保などをタイムリーに行い、北河内地区唯一の市立病院として果たすべき役割を確実に実践するためにも、患者の皆様や地域のクリニックの先生方との地道な共同作業が必要と考えておりますので、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

救急中央医療部のご紹介



片岡 尚之
(かたおか たかゆき)
救急科 医長

365日24時間体制の二次救急診療で年間14,000人以上の方を診療しています

当科では、内科・外科診療を行う救急医師2名と、小児科、産婦人科の医師各1名、合計4名の医師が365日24時間体制で二次救急診療を行っています。夜間休日の時間帯も同じ人数の人員配備を行い、救急科

での診療後に必要に応じて専門科に引き継ぎ、切れ目なく診療が継続されるよう努めています。主に枚方市、交野市、寝屋川市といった地域からの搬送を中心に、下表の通り年間約5,000件の救急搬送と、直接来院される方も含めて年間14,000人以上の方を診療しています。

■令和5年1月1日～12月31日の救急科の診療実績

	救急搬送	自己来院	北河内夜間後送	合計
15歳以上	3,278名	7,965名		11,243名
小児	1,884名	978名	221名	3,083名
合計	5,162名	8,943名	221名	14,326名

緊急性の高い症状への的確な初期対応を迅速に行っています

当科の特徴として、意識障害、四肢麻痺、呼吸不全、血圧低下、吐下血、腰背部痛などといった緊急性の高い症状に対して初期対応ならびに精密検査による診断を行い、それぞれ専門科への治療引き継ぎを行なっています。明らかに大量輸血が必要な方、慢性腎臓病で透析を行っている方、または高次医療機関での手術が必要な方など当院で治療できない方も、速やかに治療可能な医療施設を紹介し、適切な治療を受けていただけるよう努力しています。また感染症病棟と救急外来がエレベータ直通になっており、近年猛威を振るっている新型コロナ感染症の診療や入院治療も積極的に行っています。

近年では、高齢者施設や独居で生活している高齢者の救急搬送が増加の一途を辿っています。当院のMSW（メディカルソーシャルワーカー）が医療相談に乗ったり、身寄りや担当ケアマネジャーがおられない方へのアフターケアのために、市役所や地域包括支援センターの方々と連絡を取り合い、必要なサービスや支援が受けられるようご案内しています。当科の役割は、市民の健康的な生活を補助するための窓口の1つと考えています。

地域医療機関の先生方へ

当科では前述のような緊急的な症状以外にも、①**通常の外来診療での対応が難しい方**、②**救急車で移動が難しいADL低下または全身状態の悪い方**、または③**当日中に時間外診療が必要な方**、をご紹介いただいております。例えば、発熱、脱力などの症状で細菌性の感染症が疑われるものの、脳梗塞の除外診断目的で紹介したい場合や、心不全か肺炎かはっきりしない呼吸不全の患者さんなど、どの専門医に紹介していいかわからない場合には当科までご紹介ください。

市立ひらかた病院ICLSコース 第50回を迎えました

市立ひらかた病院では、医療従事者を対象としたICLSコース※を年に4回程度実施しています。「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、シミュレーション実習です。

受講者は医師、看護師以外に、臨床検査技師や診療放射線技師、理学療法士など院内外から参加し、職種を超えた

蘇生現場でのチーム医療を学んでいます。院外の方と良好なコミュニケーションが図れ、和気あいあいとした雰囲気の中で学びを共有しています。

これからも近隣病院の方々と交流を深め、連携を図っていききたいと思います。

※ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コース:医療従事者のための実技実習を中心とした蘇生トレーニングコース(日本救急医学会ホームページから抜粋)



地域医療連携懇談会報告 令和6年5月25日(土)に当院講堂にて地域医療連携懇談会が開催されました。

第1部

市立ひらかた病院 看護局 渡部 美也子

「R6能登半島地震 災害支援ナース活動報告(避難所支援)」

市立ひらかた病院 医療相談・連携室 浅井 典美

「発災2か月後の輪島中学校避難所運営支援業務 従事報告」



第2部

吉田病院 院長 吉田 和正 医師

「枚方市医師会 災害対応マニュアル作成秘話」

高槻赤十字病院 医監 平松 昌子 医師

「災害時におけるトリアージの実際」



第1部では被災地に派遣された当院職員から、支援活動内容について報告しました。

第2部では吉田医師から、複雑であったマニュアルを活用しやすく簡素化された秘話を、平松医師からは実際にトリアージタグを使用され、参加者を交えてのご講演をいただき、大変貴重な時間となりました。参加数は111名(会場参加88名、オンライン23名)で、多くの方にご参加いただくことができました。

登録医療機関のご案内

当院と連携している先生をご紹介します

先生
教えてください！

医療法人はじめ会 ゆうき内科

開業の経緯

基幹病院での経験を活かし、地域の皆様の健康長寿に貢献するため、令和元年12月、京阪枚方市駅前の「枚方ビオルネ」4階に「ゆうき内科」を開院しました。

患者さんへのアピールポイント

コロナ禍においては、新型コロナワクチン約11万回接種、発熱外来約2万人診療で地域医療に貢献して参りました。

当院は、患者さんのお話をしっかりと聞き、結果や方針を丁寧に説明することをモットーにしています。

「呼吸器内科」では長引く咳(気管支喘息や肺気腫など)を、「スポーツ内科」ではランナーや運動愛好家の貧血などを診ています。

「在宅医療」にも注力しており、令和4年に「ゆうき訪問看護ステーション」も開設しました。通院困難な方へは、訪問看護・薬局・ケアマネ等多職種で連携し「患者さんやご家族の想いに寄り添った、心をつなぐ在宅医療」を実現します。

趣味

趣味は将棋でアマ2段の実力。スポーツは中学から卓球。
座右の銘は「鶏口となるも牛後となるなかれ」。



田中 祐貴 先生



住 所 枚方市岡本町7番1号枚方ビオルネ4階

電話番号 072-807-7300

診療科 内科・呼吸器内科

★訪問診療も行っております。

せがわ歯科医院

開業の経緯

私は大阪歯科大学を卒業後、京都大学附属病院歯科口腔外科学教室に入局、丹後ふるさと病院医員、豊郷病院医長を経て、京都市内のインプラント専門医院で副院長をさせていただきました。このたびご縁があり、2009年枚方市で開業することとなりました。

患者さんへのアピールポイント

当院では、歯列矯正を除く、虫歯・歯周病・入れ歯・インプラントなど幅広く治療にあたっております。お口の周辺のことでも気になることがあれば、いちどご相談いただければと思います。

また、当院では患者様おひとりおひとりに、余裕のある診療時間を確保しております。そのため、丁寧な治療、まとまった治療が可能であり、また治療に対する説明が必要になった際も、その時間を十分に取ることができます。

趣味

ドライブ 特にエアコンなしで窓を開けてドライブすると気持ちいい季節は、いろんなところに行きます。



瀬川 篤典 先生



住 所 枚方市東中振1丁目

7番10号

電話番号 072-831-8241

診療科 歯科